

オススメ本案内コーナー

高野 吉朗

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 理学療法学科

リハビリテーションと工学：
リハビリテーション医療を学ぶ
学生の教養書

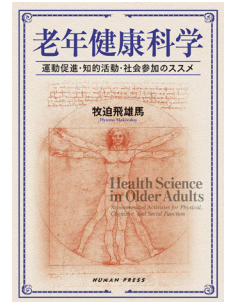
徳田良英、高野吉朗編

DTP出版、2020年、3,520円



本書は理学療法士・作業療法士・言語聴覚士をめざす学生向けのリハビリテーション工学のテキストである。内容は、生体力学、材料工学、モーター・センサー、建築工学、管理工学などの工学部で学ぶような分野から、臨床に必要な福祉用具、ロボットを利用したリハビリテーション、障害を抱えた患者、子ども、高齢者に求められるリハビリテーション工学などエッセンスを幅広く網羅している。企画・編集は本協会編集委員の経験のある徳田氏・高野氏が担当し、大学教員である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と共同で執筆した。医療系の学生にとって難解でとかく敬遠しがちな工学の内容もわかりやすくコンパクトにまとめている。

2018年に日本理学療法士協会が行ったアンケートの「養成校時代に福祉用具を学ぶ時間の有無の質問」で、最も多かった「ある程度はあった」でさえ27.8%しかなく、十分な時間が確保されていないことが窺える。将来臨床で、エンジニアと協働で当事者の生活を支援するセラピストの活躍が望まれる。そのためには、卒前教育でリハビリテーション工学の基礎知識を学び、興味を持つ学生が一人でも増えることが大切である。

老年健康科学：運動促進・
知的活動・社会参加のススメ
牧迫飛雄馬著ヒューマン・プレス、2019年、
3,740円

牧迫氏は老年リハビリテーションの研究者の理学療法士で、長年、地域で高齢者の介護予防の研究に取り組まれている。

本書は高齢者医療で話題になっている「ロコモティブシンドローム（運動器の機能低下）」「サルコペニア（加齢性筋肉減少症）」「フレイル（身体的・認知的・社会的に不健康状態）」「認知症」を中心に、自身の研究と世界の最新の研究結果を紹介されている。それらの症状に対する薬物療法が確立されていない現状において、最優先とされる治療は運動であることが科学的に論述されている。運動は身体に良いと分かってはいるが、本書を読むと治療の第一選択であることが認識できる。具体的な筋トレ、ストレッチ、有酸素運動の方法が詳しく説明されていて、すぐに実践できる。運動を継続するのは容易ではないが、一人ではなくグループで行うことで、認知症の予防につながるという内容は参考にしたい。人は誰も年を取り、身体の老化現象を避けることはできないが、介護状態になるのを遅らせるには、運動が有効であると納得させられる。

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 理学療法学科
E-mail: y-takano@iuhw.ac.jp